

# 環境まちづくり先進都市の生成プロセスの記述と展開

○戸川 卓哉<sup>1</sup>・大西 悟<sup>1</sup>  
(所属 1:国立環境研究所)

本研究は、福島県における災害復興まちづくりを他地域の先進的取組によって得られた知見に基づいて支援するためのフレームワークを構築することを目的として実施している。

まず、地域づくりの先進的事例として知られる5地域（岩手県紫波町、宮城県女川市、宮崎県日南市、岡山県真庭市、福島県飯舘村）を対象として、文献調査とステークホルダーへのインタビュー調査を実施し、課題解決プロセスの特徴的要素を抽出した。ここでは、災害復興事例として宮城県女川市や福島県飯舘村の事例も加えている。さらに、パターン・ランゲージのフレームに基づいて記述した。全体で40のパターンが抽出されたが、地域に共通するパターンとして、小規模な試行錯誤のプロセスを繰り返したこと、外部専門家とのネットワークを重視したこと、地域内の多様な主体と連携しつつ地域全体の課題としてまちづくりを進めたこと、状況に応じて組織体制を柔軟に変更したことが挙げられた。地域づくりにおいて、共創的・漸進的プロセスの重要性が明らかになった。

次に、パターンを展開するためのワークショッププログラムを開発した。内部検証の後に、福島県浜通り地域の自治体を対象として、地域のまちづくりに関わるステークホルダーの協力のもとでワークショップを実施した。その結果、多くのパターンが適用地域における文脈に応じて具体化して解釈することが可能であることが分かった。さらに、それらを関連付けることでまちづくりの流れを表現し、状況に応じてどのように取り組んでいけば良いかという点を共有することができた。分析的に検討を進める総合計画等に基づく従来のアプローチに対して補完的なまちづくりの方法論を提示することができた。以上を通じて、先進的事例の共創的・漸進的プロセスからパターンを抽出し、その知見を他地域へ展開するための枠組を提示することができた。

